

2021年10月31日 午前礼拝 説教:大木英雄牧師  
「最初に異邦人伝道に用いられたコルネリオ」

使徒 10:1~8

- 1.さて、カイザリヤにコルネリオという人がいて、イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。
- 2.彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていたが、
- 3.ある日の午後三時ごろ、幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。御使いは彼のところに来て、「コルネリオ。」と呼んだ。
- 4.彼は、御使いを見つめていると、恐ろしくなって、「主よ。何でしょうか。」と答えた。すると御使いはこう言った。「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられています。
- 5.さあ今、ヨッパに人をやって、シモンという人を招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれています。
- 6.この人は皮なめしのシモンという人の家に泊まっていますが、その家は海べにあります。」
- 7.御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリオはそのしもべたちの中のふたりと、側近の部下の中の敬虔な兵士ひとりとを呼び寄せ、
- 8.全部のことを説明してから、彼らをヨッパへ遣わした。

神様は神様の愛を示すためにまずアブラハムを選ばれました。アブラハムを用いてユダヤ民族を起こされました。ユダヤ人はみな天地創造の神様は自分たちの神様だと信じています。しかし神様はイエス・キリストを地上に遣わし、ユダヤ人だけではなく異邦人も救おうとされました。

使徒 10:1, さて、カイザリヤにコルネリオという人がいて、イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。

異邦人の中で1番初めにイエス・キリストを信じたのがコルネリオという100人隊長でした。100人隊長というのはローマ兵として20年間ローマに仕えた、選りすぐりの兵士です。異邦人の中からどうして神様がコルネリオを1番最初に選ばれたのかわかりません。わかっていることはユダヤ教に関係していたことはわかっています。

使徒 10:2, 彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていたが、  
神様がコルネリオを選ばれたのは神様を恐れていたということです。神様を恐れるとは神様のみ言葉には絶対に服従したということです。

ユダヤの人々に多くの施しをしていた。

使徒 20:35, このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」

マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

ユダヤ人は異邦人を差別していたので差別されている人が差別している人を愛することは簡単なことではありません。しかしユダヤはローマに支配されていますので 100 人隊長はユダヤ人からも尊敬されていたと思います。

次にいつも神に祈りをしていた。葛西教会では役員と希望兄と私で毎週水曜日の午後 8 時から祈禱会を持っています。婦人たちも祈禱会を持っています。しかしコルネリオのようにいつも神様に祈っているというわけではありません。

詩篇 65:2, 祈りを聞かれる方よ。みもとにすべての肉なる者が参ります。

神様は全知全能の神様です。私たちは毎週祈禱会で病気の人を癒しを祈っています。神様は全知全能の神様ですからどこがどう悪いのかをご存じです。今は病院でも多くの時間をかけて検査をします。どこがどのように悪いのかがわからなければ手術をすることが出来ないのです。しかし神様は全知全能ですからどこが悪いのかをご存じです。このような神様に祈ることが出来ることはすごく感謝なことです。

マタイ 28:20, また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」いつも共にいてくださる神様に祈るのです。しかし祈禱会で八・ヨンジョ先生の「祈り、天の扉を開く」を読んでいますが、毎回私はなんと祈りに少ないものかを教えられます。祈りが少ないということは神様に信頼していないということです。

マタイ 7:7, 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

この祈りは無条件です。しかし自分たちの方でこの祈りは祈っても無理ではないかと条件を付けるのです。しかし水曜日の祈禱会は感謝しています。自分の祈りの少ないことを悔い改めることが出来るからです。神様がコルネリオを選ばれた条件は

- ① 神を恐れ
- ② あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ
- ③ 祈りをしていた

この3つを行えば神様から用いられます。

カイザリヤはガリラヤ湖の南端から南へ 20 キロそこから西に向かい地中海沿岸までいくとカイザリヤがあります。

使徒 10:3, ある日の午後三時ごろ、幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。御使いは彼のところに来て、「コルネリオ。」と呼んだ。

御使い=天使

神様は大勢の天使を造られました。天使は神様に仕えるために作られました。み使いは神様の言葉を語ります。

マタイ 1:20, 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

使徒 10:4, 彼は、御使いを見つめていると、恐ろしくなって、「主よ。何でしょうか。」と答えた。すると御使いはこう言った。「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられています。

あなたの祈りは主の前に立ち上っている。

私たちの祈りは天地創造の神様に聞かれています。

詩篇 65:2, 祈りを聞かれる方よ

天地創造の神が私たちの祈りを聞いてくださるのです。なんと感謝なことではないでしょうか。

使徒 10:5, さあ今、ヨッパに人をやって、シモンとう人を招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれています。

ヨッパ=カイザリヤの南 50 キロのところにある町

使徒 10:7, 御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリオはそのしもべたちの中のふたりと、側近の部下の中の敬虔な兵士ひとりと呼び寄せ、

使徒 10:8, 全部のことを説明してから、彼らをヨッパへ遣わした。

使徒 10:9, その翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈りをするために屋上に上った。昼の十二時頃であった。

その翌日、カイザリヤからヨッパまで 50 キロあるので 1 日以上かかります。

使徒 10:10, すると彼は非常に空腹を覚え、食事をしたくなった。ところが、食事の用意がされている間に、彼はうっとりとして夢ごちになった。

使徒 10:11, 見ると、天が開けており、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来た。

使徒 10:12, その中には、地上のあらゆる種類の四つ足の動物や、はうもの、また、空の鳥などがいた。

使徒 10:13, そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。」という声が聞こえた。

使徒 10:14, しかしペテロは言った。「主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」

使徒 10:15, すると、再び声があつて、彼にこう言った。「神がきよめた物を、きよくないと言つてはならない。」

使徒 10:16, こんなことが三回あつて後、その入れ物はすぐ天に引き上げられた。

神様はペテロにも異邦人伝導の準備をさせました。ユダヤ人は聖く、異邦人は汚れていることを教えるために。

レビ 11:2~26

神様は食べてよい動物と食べてはいけない動物を分けられたのです。これは、ユダヤ人は聖く、異邦人は汚れていることを教えるためです。

使徒 10:19, ペテロが幻について思い巡らしているとき、御霊が彼にこう言われた。「見なさい。三人の人があなたをたずねて来ています。」

使徒 10:20~37

使徒 10:38, それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。

私たちは父なる神、子なる神、聖霊なる神の三位一体の神様を信じています。イエス様は神様ですから聖霊によって力を受ける必要はないのです。

I ペテロ 2:21, あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。イエス様はクリスチャンに模範を示すために来られたので、聖霊の力を受けられたのです。

使徒 10:39~43

使徒 10:44, ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。

使徒 10:45, 割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。

使徒 10:46, 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでペテロはこう言った。

使徒 10:47, 「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましようか。」

これは特別なことです。異邦人もイエス・キリストを信じれば救われることを教えるためなのです。

使徒 2:4, すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。

異言 = 他国の言葉で話すことを異言と言います。

## 結論

神様は、異邦人は何億人もいる中からどうしてコルネリオを選ばれたのか。

- ① 神様を恐れていた。
- ② マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。を守っていた。
- ③ いつも神様に祈っていた。

### ①神様を恐れていた。

創世記 22:2, 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

イサクを殺せという命令です。アブラハムは自分の愛する息子を殺すより、自分が死んだほうが良いと思ったことでしょう。しかしアブラハムは神様の命令に従いました。

創世記 22:3, 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、ふたりの若い者と息子イサクとをいっしょに連れて行った。彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ出かけて行った。

翌朝早くと書かれていますので奥さんのサラには話していないと思います。

創世記 22:6, アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

創世記 22:7, イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク。」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」

創世記 22:8, アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。

創世記 22:9, ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた。

創世記 22:10, アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

創世記 22:11, そのとき、主の使いが天から彼を呼び、「アブラハム。アブラハム。」と仰せられた。彼は答えた。「はい。ここにおります。」

創世記 22:12, 御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

神様の命令に従うことが神様を恐れるということです。

創世記 22:13, アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶに引っかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた

神様の命令に従うと神様が働いてくださるのです。

② このことは祈らないとできません。

③ いつも祈っていた。

創世記 32:24, ヤコブはひとりだけ、あとに残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。

創世記 32:25, ところが、その人は、ヤコブに勝てないのを見てとって、ヤコブのもものつがいを打ったので、その人と格闘しているうちに、ヤコブのもものつがいがはずれた。

創世記 32:26, するとその人は言った。「わたしを去らせよ。夜が明けるから。」しかし、ヤコブは答えた。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらなければ。」

ヤコブの偉いところは、神様の「あなたの生まれ故郷に帰りなさい」という命令に従ったことです。生まれ故郷に帰れば**エサウ**から殺されるかもわからないのです。ヤコブはエサウに偵察隊を送っているのです、するとエサウはなんと 400 人の兵士を連れてきているというのです。ヤコブに兵士は一人もいません。ヤコブは**エサウ**に贈り物を送るのです、

雌ヤギ 200 頭、雄山羊 20 頭、雌羊 200 頭、雄羊 20 頭、乳ラクダ 30 頭、雌牛 40 頭、雄牛 10 頭、雌ろば 20 頭、雄ろば 10 頭、この贈り物でエサウの怒りをなだめてもらおうとしたのです。ヤコブは**エサウ**から長子の祝福をだまし取ったのです。殺されて当然です。しかし多くの贈り物で**エサウ**の怒りをなだめてもらおうとしたのです。

しかしヤコブには平安がないのです。そこで最後に神様にご加護を祈っているのです。

創世記 32:26 で祝福を祈っていますが、これは英語の聖書で調べると「ご加護」とありません。神様に守ってほしかったのです。私は自分の祈りが少ないと思っていますが、ヤコブは**エサウ**から殺されると思って神様にご加護を祈っているのです。

「苦しい時の神頼み」とバカにされますが、本当の祈りは苦しくないと祈れないということを教えられます。「苦しい時の神頼み」は聖書的だと思います。葛西教会での役員と希望兄弟との祈りはほとんど病人の癒しの祈りです。家族の救いの祈りも。

ヘブル 9:27, そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

心から死後の裁きを恐れないと祈れないことです。

【説教:大木英雄牧師】